

Veritas NetBackup™ Self Service リリースノート

8.3

マニュアルバージョン 1

Veritas NetBackup™ Self Service リリースノート

最終更新日: 2020-09-18

法的通知と登録商標

Copyright © 2020 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、および NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所です。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の Web サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、Veritas の Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup Self Service リリースノート	5
	NetBackup Self Service 8.3 について	5
第 2 章	新機能および機能強化	7
	新機能および機能強化	7
	修正済みのバグ	9
	以前のバージョンからのアップグレード	9

NetBackup Self Service リリースノート

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Self Service 8.3 について](#)

NetBackup Self Service 8.3 について

NetBackup Self Service 8.3 は自動化と制御を IT に提供する一方、ユーザーがセルフサービスで通常のバックアップやリストアのリクエストを処理できるようにします。

Self Service のマルチテナント、役割ベースのアクセス、ダッシュボード機能により、保護対象や進行中のバックアップ使用状況を表示できます。Self Service のリクエストフォームを使うと、NetBackup 管理の複雑性についてトレーニングを受けていないユーザーでも複合ポリシー管理タスクを安全に管理できます。

企業の場合

複数の場所とデータセンターで多くのエンドポイントに対しバックアップおよびリストアを管理することは、通常はスペシャリストのチームを必要とするタスクです。ポリシーへの変更を有効にすることは、時間がかかる、間違いやすい手動アクティビティとなり、これによって重大なリソースが保護されなくなる可能性があります。

直感的なセルフサービスポータルを有効にすると、複雑さと間違いが減り、多くの手動ポリシー変更アクティビティが自動化されます。また、非バックアップスペシャリストは管理および監査される環境でバックアップおよびリカバリ関連のタスクを実行できるようになります。

サービスプロバイダの場合

混合プラットフォームで複数のテナントにバックアップおよびリストアサービスを提供することは、多くのサービスプロバイダにとって課題です。サービスプロバイダはセルフサービスを有効にし、バックアップおよびリストアに対するテナントリクエストを自動化できます。

このアクションによりテナントを管理し、プロビジョニングコストを大幅に減らすことができます。

NetBackup Self Service では、複数のテナントが、インフラストラクチャのバックアップおよびリストアのリクエストが直感的に行われる目的に合ったセルフサービスポータルにアクセスできるようになります。保護環境のステータスは追跡され、報告されます。

サービスプロバイダはテナント環境間の厳密な分離およびセキュリティを保証しながら、自動化から取得します。テナントは保護内容を管理および表示できます。

インストール

NetBackup Self Service をインストールする方法については、『**NetBackup Self Service 8.3 インストールガイド**』を参照してください。

新機能および機能強化

この章では以下の項目について説明しています。

- [新機能および機能強化](#)
- [修正済みのバグ](#)
- [以前のバージョンからのアップグレード](#)

新機能および機能強化

エージェントレスファイルリストア

エージェントレスファイルリストア機能では、**NetBackup** クライアントがインストールされていない **VMware** 仮想マシンに、個々のファイルやフォルダをリストアできます。

元の仮想マシンにファイルまたはフォルダをリストアし、既存のファイルまたはフォルダを上書きできます。仮想マシンのサブフォルダにもリストアできます。また、代替仮想マシンにリストアできます。いずれの場合も、リストアを開始するにはクライアントの管理者クレデンシャルを指定する必要があります。このリストア処理はリカバリ前チェックを含んでいます。

この機能は、**NetBackup 8.2** 以降で保護されている **VMware** 仮想マシンでのみ利用可能です。VMware vCloud Director 仮想マシンもサポートされます。

エージェントベースファイルリストアは引き続き利用可能です。

VMware vCenter の自動検出

Self Service では、リンクされた任意のマスターサーバーに登録されている **VMware** 資産を自動的に検出して同期できるようになりました。管理者は、柔軟なテナントマッピング機能を使用して、構成された **Self Service** テナントに資産をマッピングできます。このマッピングは、vCenter Server、データセンター、クラスター、ホスト、フォルダまたはカスタムタグフィルタに基づいて実行できます。

この機能は **NetBackup** マスターサーバー **8.2** 以降で利用可能です。

バックアップイメージの期限切れ

Self Service の資産に関連付けられたバックアップイメージを期限切れにできるようになりました。[資産の詳細 (Asset Detail)] ページの [バックアップ (backup)] タブに、その資産のすべてのリンクされたマスターサーバーから検出されたバックアップイメージのリストが表示されます。任意の行に対して [イメージの期限切れ (expire image)] 処理を選択できます。

VMware インプレースディスクリストア

仮想マシン全体のリストアの代替として、すべての VMware 仮想マシンで新しいリストアアクションを利用できます。この新しいインプレースディスクリストアアクションでは、*MoRefId* などの属性を変更することなく、すべてのディスクをリストアできます。

この機能を利用するには、互換性のあるマスターサーバーが必要です。[バックアップサーバーの管理 (Backup Server administration)] ページで、このオプションを有効にする必要があります。

VMware 全体リストアの機能強化

仮想マシンの全体リストア機能が強化され、ディスクプロビジョニング方式を制御できるようになりました。ディスクプロビジョニングは空き領域の割り当てとフォーマットを含み、リストア速度に影響します。

その他の機能強化

- API は、Self Service 代替コンテナへの VMware vCloud Director 仮想マシンのリストアをサポートできるようになりました。
- Self Service は vCloud Director 9.5 をサポートできるようになりました。[資産のインポート (Assets Import)] の [vCloud Director] ページで vCenter クレデンシシャルを入力することもできます。

Self Service プラグインおよびアプリ

- NetBackup Self Service vRealize Orchestrator (vRO) プラグイン 1.1
vRealize Automation (vRA) で、ビジネスグループの管理対象として vCenter 仮想マシンを登録できる新しいワークフローを使用できます。
- NetBackup Self Service VMware vCloud Director プラグイン 1.0
新しい VMware vCloud Director (vCD) プラグインを利用できるようになりました。このプラグインを使用すると、vCD ユーザーインターフェースから Self Service のアクションにアクセスできます。

プラットフォームの機能強化

- Self Service データベースの構成
Self Service データベースの場所をより簡単に変更できるようになりました。これにより、環境間の移行が簡素化されます。

- SQL Server の TDE および TLS のサポート
Self Service は、TDE (透過的データ暗号化) および TLS (トランスポート層セキュリティ) をサポートすることが検証されました。
- Windows Server 2019 のサポート
Windows Server 2019 システムでのインストールがサポートされるようになりました。

修正済みのバグ

- リクエストリストは、非ラテン言語のリクエストステータス列の表示を破損させます。
- クエリーが長すぎると、資産の保護でエラーが発生する可能性があります。表示されるエラーメッセージは「Packet is too big. Maximum packet size is 68536 bytes」です。
- ユーザーの [匿名化 (Anonymize)] アクションで、ユーザーの Active Directory SID は削除されません。
- [マイ資産 (My Assets)] ツリーで、vCloud Director インポートは設定済みの表示名ではなく、常に vOrg 名を表示します。
- ファイルリストア用に登録された vCloud Director 資産は、vCloud Director インポートが実行されるときに登録解除されます。
- [監視 (Monitoring)] 画面で、[システムの更新 (System Update)] アクティビティに重複レコードが表示されることがあります。

以前のバージョンからのアップグレード

NetBackup Self Service 7.7、7.7.3、8.0、8.1、8.1.2、8.2からのアップグレードがサポートされています。NetBackup ソフトウェア互換性リストを参照してください。

詳しくは、『NetBackup Self Service インストールガイド』を参照してください。「前提条件」セクションをよく読み、ご使用の環境が NetBackup Self Service 8.3 をサポートできることを確認してください。